

【担当教員名】 長谷川隆雄	対象学年	1	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

1. 人々の健康を促進するために必要な日常生活行動の援助方法を理解する。
2. 診療に関わる援助方法等の基本的な看護技術について修得する。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. 診療における看護の役割について説明できる。
2. 排泄における看護の役割について説明できる。
3. 排泄に伴う看護技術の理論的な根拠について説明できる。
4. 導尿に必要な看護技術を修得できる。
5. 浣腸に必要な看護技術を修得できる。
6. 検査における看護の役割について説明できる。
7. 検査に伴う看護技術の理論的な根拠について説明できる。
8. 採血に必要な看護技術を修得できる。
9. 採尿に必要な看護技術を修得できる。
10. 与薬における看護の役割について説明できる。
11. 与薬に伴う看護技術の理論的な根拠について説明できる。
12. 筋肉内注射に必要な看護技術を修得できる。
13. 輸液の準備に必要な看護技術を修得できる。
14. 呼吸を整えるための看護の役割について説明できる。
15. 呼吸を整える看護技術の理論的な根拠について説明できる。
16. 口鼻腔吸引に必要な看護技術を修得できる。
17. 吸入療法に必要な看護技術を修得できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	1. 診療に伴う看護技術 1) 診療における看護の役割	1	講義
2	5. 排泄に伴う看護技術 1) 排泄障害における看護の役割	2	講義
	2) 排泄障害に対する援助の種類と方法	3	
3, 4	3) 演習-導尿と浣腸の方法	4, 5	演習 (基礎看護学全教員)
5	2. 検査に伴う看護技術 1) 検査における看護の役割	6	講義
	2) 検査の種類と方法	7	
6, 7	3) 演習-採血と採尿の方法	8, 9	演習 (基礎看護学全教員)
8	3. 与薬に伴う看護技術 1) 与薬における看護の役割	10	講義
	2) 与薬の種類と方法	11	
9, 10	3) 演習-筋肉内注射の方法	12	演習 (基礎看護学全教員)
11	4) 演習-輸液の準備の方法	13	
12	4. 呼吸を整える看護技術 1) 呼吸を整えるための看護の役割	14	講義
	2) 呼吸を整える援助の種類と方法	15	
13, 14	3) 演習-口鼻腔吸引と吸入療法の方法	16, 17	演習 (基礎看護学全教員)

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	系統看護学講座 基礎看護学 [3]	基礎看護技術Ⅱ	藤崎郁他 医学書院	2007 2,800円+税
参考書	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 第6版	氏家幸子他	医学書院	2005 2,500円+税
その他の資料	基礎看護学-基礎看護技術	川村佐和子他編	メディカ出版	2004 3,990円(税込み)

【評価方法】	【履修上の留意点】
1. 演習内容に基づいた課題の内容：10点 2. 筆記試験：90点	1. 演習を効果的にすすめるためには、事前の学習を十分に行うことが重要である。